

## PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 63-110425  
(43)Date of publication of application : 14.05.1988

---

(51)Int. Cl.

G02F 1/133

---

(21)Application number : 61-257934 (71)Applicant : TOPPAN PRINTING CO LTD  
(22)Date of filing : 29.10.1986 (72)Inventor : ONISHI MOTOI  
SASAKI ATSUSHI  
HOSHI HISAO

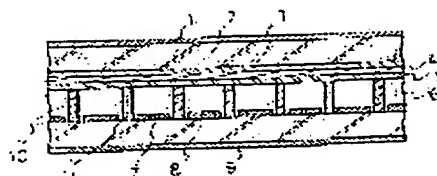
---

(54) CELL FOR SEALING LIQUID CRYSTAL

(57)Abstract:

PURPOSE: To permit uniform and stable maintenance of about  $\leq 2\mu\text{m}$  cell gap by using a material having adhesiveness to a transparent panel and material having rigidity to form spacers and forming the spacers respectively independently.

CONSTITUTION: Transparent electrodes 3, 7 are formed to a matrix shape on glass substrates 2, 8 and an insulating film 4 is provided on one transparent electrode substrate. An oriented film 5 is further coated thereon. One kind of the resin selected from casein, glue, gelatin, polyurethane and polyamide resins, etc., or the material formed by converting said resins to a photosensitive resin is selectable as the material of the adhesive spacers 10. The material for the rigid spacers 11 is exemplified by resins which are increased in rigidity, stable inorg. materials such as silicon dioxide and alumina or metals, etc. For example, the adhesive spacers 10 and the rigid spacers 11 are formed alternately to stripe shapes and are disposed. The very small cell spacing of about  $2\mu\text{m}$  or below is thereby exactly maintained.



---

LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's  
decision of rejection]

[Kind of final disposal of application  
other than the examiner's decision of  
rejection or application converted  
registration]

[Date of final disposal for  
application]

BEST AVAILABLE COPY

## ⑫ 公開特許公報(A)

昭63-110425

⑬ Int.Cl.

G 02 F 1/133

識別記号

3 2 0

庁内整理番号

8205-2H

⑭ 公開

昭和63年(1988)5月14日

審査請求 未請求 発明の頁 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 液晶封入用セル

⑯ 特 願 昭61-257934

⑰ 出 願 昭61(1986)10月29日

⑱ 発 明 者 大 西 基 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内  
 ⑱ 発 明 者 佐 々 木 淳 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内  
 ⑱ 発 明 者 星 久 夫 東京都台東区台東1丁目5番1号 凸版印刷株式会社内  
 ⑲ 出 願 人 凸版印刷株式会社 東京都台東区台東1丁目5番1号

## 明 細 書

## 1 発明の名称

液晶封入用セル

## 2 特許請求の範囲

(1) 少なくとも透明電極パターンを有する透明基板を対向させた1組の透明パネル間と、該透明パネル間の間隙を維持する目的でスペーサーを介在させている液晶封入用セルにおいて、前記スペーサーが、該透明パネルに対して接着性を有する材料と剛性を有する材料により、それぞれ独立して形成配置することにより、該基板間の間隙を均一かつ安定に保持することを特徴とする液晶封入用セル。

(2) 特許請求の範囲(1)項において、接着性を有するスペーサーが、カゼイン、グリユー、ゼラチン、低分子量ゼラチン、ノボラック、ゴム、ポリビニルアルコール、ビニルポリマー、アクリレート樹脂、アクリルアミド樹脂、ビスフェノール樹脂、ポリイミド、ポリエステル、ポリウレタン、

ポリアミド系の樹脂または上記樹脂を感光性樹脂化したものからなり、剛性を有するスペーサーが上記有機材料の剛性を高めたもの、あるいは無機材料、金属よりなる液晶封入用セル。

(3) 特許請求の範囲(1)項において、セル間隙が2mm前後あるいは、それ以下であることを特徴とする液晶封入用セル。

## 3 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は液晶表示パネルを用いた装置にかかわり、特に大型パネル、放熱電性液晶を用いた液晶表示パネルに連する周辺に関するものである。

(従来技術)

従来、液晶封入用セルにおいてスペーサー材としてはグラスファイバーあるいはグラスビーズ、樹脂ビーズ等が用いられ、パネルの保護は、主にスクリーン印刷によりパネルの周辺部に塗布されたシール材で行っていた。それ故、マトリクス型の液晶表示パネルでのシール部は有効表示画面の周辺部に限られており、電極間の接着が不充分で

あった。

また強誘電性液晶パネルの作成に伴い、セルギャップを高く保つ必要があるが現状ではビーズ厚での2μm程度あるいはそれ以下のセルギャップの制御は困難である。

#### (発明の目的)

従来のTN型液晶表示パネルにかり、強誘電性液晶を用いた液晶表示パネルが目ざされているが、実用化の一つの問題としてセルギャップの微小化に伴うギャップの制御、保持を遂げることが出来る。さらにパネルの大型化が望まれ、重要な課題となつてきている。

本発明の目的は、2μm程度、あるいはそれ以下のセルギャップを均一かつ安定に保持し、またパネルの大型化にも耐えうる液晶セルを作成することである。

#### (発明の構成)

第1図、第2図に本発明の液晶内入用セル一実施例の構成図を示す。

ガラス基板(1)(18)上に透明電極(3)(17)をマトリクス

- 3 -

状に形成し、一方の透明電極基板上には絶縁膜(4)を設け、さらにその上に配向膜(5)を設ける。配向膜(5)はラビング法より一般配向膜が形成されている。

接着性スペーサー(10)の材料としては、カゼイン、アクリル、ポリアセチン、低分子重ポリアセチン、ノボラック樹脂、ゴム、ポリビニルアルコール、ビニルポリマー、アクリレート樹脂、アクリルアミド樹脂、ビスフェノール樹脂、ポリイミド、ポリエーテル、ポリウレタン、ポリアミド系の樹脂から選択された一種の樹脂、または上記樹脂を感光性樹脂化したものが選択できる。

さらに、断性スペーサー(10)の材料としては、上記樹脂の断性を高めるための、二酸化ケイ素やアルミナ等の安定な無機材料あるいは金属などが挙げられる。

図の実施例では、接着性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)は互い違いにストライプ状に形成して配向されている。接着性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)の割合は1:1であるが、もちろんこれに

図の実施例では、断性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)は互い違いにストライプ状に形成して配向されている。接着性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)の割合は1:1であるが、もちろんこれに

図の実施例では、断性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)は互い違いにストライプ状に形成して配向されている。接着性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)の割合は1:1であるが、もちろんこれに

図の実施例では、断性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)は互い違いにストライプ状に形成して配向されている。接着性スペーサー(10)と断性スペーサー(11)の割合は1:1であるが、もちろんこれに

- 4 -

在下で白黒表示を行う。カラーフィルターを付設すればカラー表示も可能である。

#### (作用)

本発明は、それ自身がパネルに対して接着性のあるスペーサーを用い、かつ同時に断性スペーサーも併用した液晶内入用セルであるから、2μm程度またはそれ以下の微小のセル間隔が正確に維持できる。

#### (発明の効果)

第一の利点として、フォトリソグラフィ、リフトオフ等の微細加工技術を用いてスペーサー形成を行っていることにより、2μm程度あるいはそれ以下のセル間隔制御が高精度(±0.1μm以下)で可能であり、特に強誘電性液晶内入用セルとして適している。

第二に、スペーサー自体に接着性があるので、周辺部のみのシールに比較し接着強度が増大する。

第三に断性スペーサーを設けたことにより、パネル形成の圧着時における接着性スペーサーの歪曲を妨げ、均一なセル間隔を保持することができ

- 5 -

- 140 -

- 6 -

る。パネルの大型化、画素の微細化が望まれる液晶表示装置において、またセル間隔の微小化に最も有効な手段である。

(実施例)

第1図は、セル作成過程及びその手段を示す。ガラス基板上に透明電極として $\text{ITO}$ をスパッタリングし、通常のフォトリソグラフィ法によりマトリクス状の電極パターンを形成する。

電極基板Aにおいては、まず $\text{SiO}_2$ をスパッタリングにより成膜し、これを絶縁膜とする。次に配向膜としてポリイミドをスピンコートし、ラビングにより一軸配向処理を施した。

電極基板Bは、接着性スペーサーと剛性スペーサーを交互に配するため、まず、ストライプ状の $\text{SiO}_2$ スペーサーをリフトオフ法を用いて電極側の所定の位置に形成した。これを剛性スペーサーとする。次に接着性スペーサーとしてゴム系レジストを塗りの電極加工フォトリソグラフィ法により形成した。

上記工程により作成した基板A、Bをアライ

ントの圧加熱により良好な液晶封入用セルを得た。と図面の簡単な説明

第1図は、本発明の液晶封入用セルの一実施例を示す断面図であり、第2図は本発明の液晶封入用セルの一実施例を示す平面図であり、第3図は、液晶封入用セル作成の工程手順を示すフロー図である。

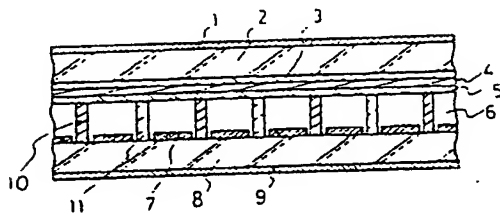
- (1) (11)…基板A (12) (12)…ガラス基板  
(11) (12)…透明電極 (14)…絶縁膜  
(15)…配向膜 (16)…液晶層  
(13)…接着性スペーサー  
(14)…剛性スペーサー

特許出願人

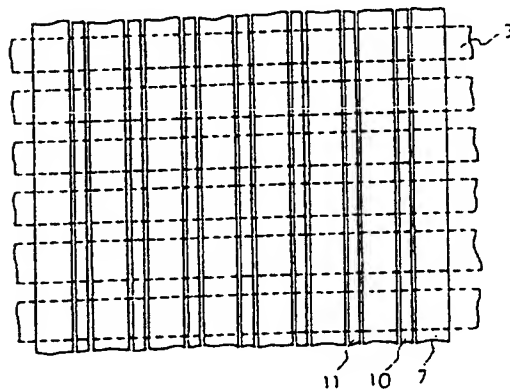
凸版印刷株式会社

代表者 鈴木 邦夫

- 2 -

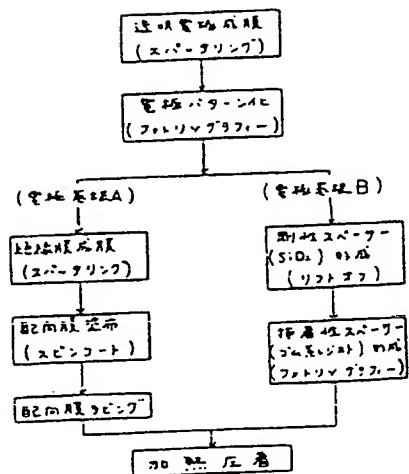


第1図



第2図

- 8 -



第3図